

World News

ロケット関連ニュース

1. 国際宇宙ステーション(ISS)へ補給の為、プログレス補給船(24P)が打上げ

プログレス補給船(24P)は、バイコヌール時間2007年1月18日午前8時12分(日本時間



24P フライト後の ISS (提供:NASA)

2007年1月18日午前11時12分)にロシアのソユーズロケットにより、カザフスタン共和国のバイコヌール宇宙基地から打ち上げられ、米国中部標準時間2007年1月19日午後8時59分(日本時間2007年1月20日午前11時59分)ISSにドッキングした。プログレスM-59補給船はISSの「ピアース」(ロシアのドッキング室)に無人でドッキングさせるミッションである。今回の補給では、補給用推進剤、酸素食糧(米国、ロシアの宇宙食)、長期滞在クルー用の衣服、衛生用品 実験ペイロードのJAXAの高品質タンパク質結晶生成装置(Granada Crystallization Facility: GCF)(3回シリーズの初回フライト)、交換修理品、予備品などが運ばれた。

- JAXA 2007.1.22 プレスリリース記事 -

2. Ariespace社はProtoStarとProtoStar I衛星の打上げ契約を締結した

Ariespace社のJean-Yves Le Gall最高経営責任者は、恒例の1月の記者会見で同社がProtoStar Ltd.とProtoStar I衛星の打上げ契約を締結した事を発表した。これは、1980年3月のAriespace社の最初の打上げ契約以来、同社で獲得した280回目の打上げ契約である。ProtoStar IIは2008年上半期にAriane5によってギアナ宇宙センターから静止移行軌道打上げられる予定である。



Ariane5 family Ariespace 提供

ProtoStar I衛星は、4100kgの打上げ時重量があり、Space Systems/Loral社(SS/L)の1300プラットフォームで製造される。SS/Lの34番目の1300プラットフォームとなる。衛星は、22本のKu-バンド36MHz帯域及び38本のC-バンド36MHz帯域トランスポンダーを備えており、デ

デジタルDTHサービス、HDTV、およびBroadbandインターネットをアジアの同社のサービス地域に提供する予定である。

-Arianespace 2007.1.8 プレスリリース記事

3. 2006年Arianespace社の打上げ実績と

2007年の計画

2006年Arianespace社はAriane 5ECAで、10機の通信衛星を打上げると共に1機の静止技術試験物を静止移行軌道に打上げた。30回の連続打上げ成功で、ヨーロッパのAriane5ロケットは十分に技術的に成熟している事を立証した。Ariane5は現在、すぐに2機の衛星を打上げる事ができる、市場で唯一の打上げシステムである。10月13日に、StarsemはSoyuz 2-1aを使用してバイコヌールからEumetsatの最初の極軌道気象衛星「Metop-A」を打上げる事に成功した。12月27日に、Arianespace社とStarsemは、首尾よくコロー恒星観測天体衛星「Soyuz2-1b」をフランス宇宙局CNESのためにバイコヌール基地から打上げる事に成功した。また、Arianespace社は2006年に12機の新衛星の打上げ契約を締結した。

内訳はArabsat(2機の衛星打上げ契約)、GMS(2機の衛星打上げ契約)、その他、COMS-1、Herios2B、Superbird7、TerreStar 1、Turksat 1R、Vinasat1、W2M、および1機の秘密ペイロードである。

Arianespace社は創立から現在までで、累計280機の打上げ契約を65社の国際衛星事業者と契約した。Starsemは22機の契約を締結した。現在、軌道上の運用中の衛星の約2/3はArianespace社によって打上げられた衛星である。アリアンスペースには38機の衛星打上げバックログがあり、Starsemは、5機のバックログがあります。この業界で、疑いなく最も大

きな注文を抱えている事になる。

Arianespace社の売上は2006年に約9億8500万ユーロで収入が損益分岐点にある状態で売り上げを公表する予定である。また、Starsemには、約7000万ユーロの売上げで収入が損益分岐点であった。

Arianespace社の2007年打上げ計画は、6機のAriane5打上げと3機のソユーズ打上げを計画している。今年最初の打上げは、イギリスのSkynet 5A軍事通信衛星とインドのInsat 4B通信衛星を、StarsemはGlobalstar衛星群の4機の衛星をバイコヌールから3機のソユーズで打上げる計画をしている。

- Arianespace 2007.1.8 プレスリリース記事 -

4. 宇宙航空研究開発機構(JAXA)

H - Aロケット12号機の打上げを 2月15日に行うと発表。

JAXAは固体補助ロケット(SSB)4本付きの標準型H - Aロケット12号機により、情報収集衛星2機(レーダ衛星2号機および光学衛星3号機実証衛星)を平成19年2月15日の12:00から15:00の時間帯に所定の軌道に投入する事を発表した。また、天候等を考慮し2月16日から28日を打上げ予備期間とする事を発表した。

- JAXA 2006.12.25 プレスリリース記事 -

衛星関連ニュース

1. ボーイング Passes GPS III 設計審査に合格、次期フェーズ契約受注

ボーイング社は全地球測位システム(GPS)衛星-IIIプログラムの重要な米空軍の審査を終了して、追加システム設計のために5000万ドルの契約を受注した。今回の審査は、2004年に受注したPhase A 概念設計契約の1000万ドルのフォローオンオーダーの一部である。この審査で、米空軍が2007年中に同社に数十億ドルのGPS IIIの契約を与えると期待している。5000万ドルの固定原価契約は2007年3月のシステム設計審査と2007年6月の主要なプログラム決定の費用となる。米空軍として、詳細なシステム・エンジニアリングと設計及びリスク軽減を加えて、2013年の最初の打上げに予定している。「GPS IIIは衛星位置情報システムの新しい規格を設定し、衛星位置情報システムで米国の国際指導力を確保するために、この次世代システムを提供するボーイングチームは優位な位置にあります。また、GPS IIIは、英国空軍及び米国の戦闘機により高い精度と耐ジャミング性のような臨戦対応運用性を提供すると共に、民間に対し、ヨーロッパのガリレオシステムとの相互運用性を提供します。」と、ボーイングGPS Program担当のJohn Duddy部長は述べた。ボーイングは、できるだけ早く新型の高度なGPS能力を軍、政府及び民間に提供するために米空軍と緊密に開発している。この契約は、ロサンゼルス米空軍宇宙ミサイルシステムセンターNavstar GPS Wingからの12機のGPS Block IIF衛星のボーイングの現行の生産契約を含んでいる。ボーイングは2007年に最初のGPS IIF衛星を納入する予定である。

- Boeing 2007.1.2 プレスリリース記事 -

2. LOCKHEED MARTIN 社INMARSAT から全地球移動体通信衛星網を3650万ドルで受注

2年間契約で、ロッキード・マーチン社は、公衆回線網との接続を提供する3箇所の衛星電話回線網制御センターとゲートウェイを建設する契約をINMARSAT社から受注した。2008年に実装されるInmarsat社の最新の全地球電話回線網は、最も接続が難しかった地域でさえ、衛星経由での携帯電話サービスをINMARSATの顧客に提供する予定である。

ネットワークは欧州デジタルセルラーシステムと衛星の移動体端末に対し、既存のInmarsat I-衛星4機経由でデュアル・モードグローバルシステムと接続する。この契約に基づき開発されるグローバルシステムが、2008年に完成するまで、既存の衛星電話ネットワークはアジアCellular衛星ネットワークで継続される。

- Lockheed Martin 2007.1.15 プレスリリース記事 -

3. Alcatel Alenia SpaceはSICRAL-1B 衛星契約をイタリア国防省と1億3百万ユーロで受注

Alcatel Alenia Spaceは、SICRAL-1B通信衛星をイタリア国防省から1億3百万ユーロで受注したと発表した。イタリア軍のこの衛星は、地球上のあらゆる場所との移動通信と同様に、イタリア、そして、外国の領土における戦略、戦術の通信を確保する事を目的とする。

また、この衛星は2004年にイタリア、フランス、イギリス、および大西洋同盟の防衛協定での合意内容に加えて、UHFとSHFバンドの衛星通信能力をNATO軍に提供する。2006年末に合意されたこの契約は、イタリア経済開発省によって考慮された産業競争力と



SICRAL-1衛星 Alcatel Alenia Space提供
最先端技術の条件付で融資される。主契約業者として、Alcatel Alenia Spaceは、衛星、数機の地上局を製造する。その中にはイタリアヴィーニャの通信管制局も含まれる。この発表はイタリア国防省と結ばれた2003年の設計契約の7200万ユーロに続く契約である。SICRAL-1B地面局と衛星の完成後更なる契約が近い将来、検討されている。

SICRAL-1B衛星構造部分の製造と衛星システム組立てはトリノ(イタリア)のAlcatel Alenia Spaceの施設で行われて、環境試験がカンヌ(フランス)の施設で行われる。

ペイロードは(ローマ(イタリア)で製造される。衛星通信系は3本のUHFバンド、5本のSHFバンドと1本のEHF/kaバンド送信機を搭載する。SICRAL-1B衛星は2007年末に打上げられ、2001年から運用しているSICRAL-1を補完する衛星となる。SICRAL-1Bは2019年まで運用され、その後はSICRAL-2によってサービスが継続される。SICRAL-2は2011年から2026年まで運用される計画である。

SICRALシステムは、NATOによってフランスのSyracuseと共に選択され、NATO同盟国で利用可能な軍事通信網である。

- Alcatel Alenia Space 2007.1.18 **プレス記事** -